

教科	学年科目	集計結果の分析	来年度に向けての課題
国語	1 現代の国語	どの項目においても、おおむね肯定的な回答を得られたが、前期と比較すると、1項目を除いて、全体的に平均値が下がった。	後期も、授業評価の項目を意識しながら単元を構成していたつもりであったが、前期ほどには及ばなかった。来年度も、単元のねらいを示し、思考の深化を目指す授業を構築していきたい。
	1 言語文化	前期と比較して、どの項目も向上していた。特に、生徒自身の考えを広げ深める機会や、できるようになったことを実感できた生徒が増えており、それにより他の項目も向上したのだと考えられる。	今年度学習した知識を来年度も活用することを伝えながら、生徒自身の「できた」という実感を大切にした授業づくりを行っていきたい。
	2 論理国語	前期同様おおむね良い評価ではあったが、一回一回の学習のねらいを受け止めさせたり、既習事項との関係性を持たせたりするところでこちらの至らないところがアンケート結果に見受けられた。	個々の細やかな学習の意図をより明確化し、その中で生徒が各関連性を受け止めることができるようになることで、一年間を通じた学習をより深いものにできるように努めたい。
	2 文学国語	前期と比較して全体的な評価の向上が見られ、思考を促す授業展開が一定の成果を上げていると分析できる。一方で、学習成果の自覚に関わる項目には伸びしろがあり、振り返りの在り方等を工夫する必要があるように感じる。	各時間や単元の学習目標と到達点をより明確に示し、生徒が自身の学びの変容を自覚できる授業構成とすることが課題である。あわせて、既習内容との関連意識した振り返りを継続的に取り入れていきたい。
	2 古典探究	授業で学んだ知識、持っている知識を使って問題を考えたり、解決したりできるようになってきた様子がうかがえる。他の人と意見交換ができるようにまではいかなかった。	地道な積み重ねが大事な科目でもあり、もう少し実力をつけて、いろいろな話題で意見交換ができるようにしていきたい。
	3 論理国語(文系)	入試に向けた問題演習を行う機会が増えた分、グループワークの中で考えを広げる・まとめるといった場面は減った。ただこれまで学習してきた知識を生かして問題を解く場面が多くあり、蓄積が大切であると実感した生徒は多かったように感じる。	入試問題を分析しながら、生徒の不足しがちな語彙力や時事問題に対する理解、論理的な思考を深めさせていく必要がある。年度当初から生徒の実態を的確に把握し、これらを地道に進めていかなければならない。
	3 論理国語(理系)	前期に比べ、各項目とも評価が下がっている。3年生理系ということで、進路に関係しない生徒が大部分を占める中で、生徒の取り組み意識の低下が認められた。一方、授業展開の仕方の工夫が不足していたとも考えられる。	進路に結び付く授業内容と一般的に身に付けておくべき内容を意識しながらの授業展開を工夫していきたい。生徒の興味ある活動の工夫もしていきたい。
	3 古典探究	3年生の後期ということもあり、進路実現を意識した授業展開となった。進路に応じて授業への取組み意識の差があったが、できるようになってきたと感じる生徒も増えてきた。	文法事項や基礎事項を早く固め、自身で古典を読解したり、古典文化に親しんでいく姿勢をさらに育みたい。授業をきっかけに生徒が自ら学んでいくことを後押しできたらと思う。
	1 歴史総合	前期に比べて、ほぼすべての項目で「できた」と実感した生徒が増えた。要所要所でペアワークやグループワークを取り入れ、自分たちで考える機会を増やした結果だと考える。	教師主導の講義形式の授業になりがちなので、生徒自身が考え、知識の共有を図れるような授業展開を目指していきたい。
地歴 公民	1 公共	授業のねらいおよび振り返りの機会が少ないことが、生徒の評価からうかがえる。毎時の授業で特に何が重要なのか意識したり、授業の結果、何がわかったのか、疑問に思ったことは何なのか振り返る機会がほしいと生徒は感じていると考えられる。	毎時の授業でねらいを示したり、振り返りを実施するのは難しいかもしれないが、最低限単元のはじめでねらいを示し、単元の終わりで振り返りを実施するようにする。特に、振り返りに関しては、Googleフォームなどを活用して行えると、生徒間で疑問点の共有などができるのではないか。
	2 地理総合	前期に比べて、学習のねらいを示したり、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面を増やしたため、自分の考えを深められたと実感する生徒が増えた。	定期試験の問題が大学入試を意識した問題が多いため、授業で学んだり考えを深めたりした内容を定期試験にもっと反映させていく必要性を感じた。
	2 日本史探究	前期と比較して、自らの考えを広げられた、関連付けて学んだことを理解することができたと感じている生徒が増えている。学習の流れが定着し、学びを実感できるようになったと考えられる。	身についたこと、できるようになったことを実感していない生徒が少ないと対して、学んだことを理解できた生徒が多い。知識以外のリテラシーの面の育成を考慮して授業計画をしたい。
	2 世界史探究	ペアワークや発問をたくさん取り入れたことで、「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」「授業の中で身に付いたことやできるようになったことを実感できた」と感じる生徒が多く見られた。	歴史の流れの中で、どこの国のどこの時代の話をしているのかわからない生徒が一定数見られるので、あらためて授業ごとに学習のねらいを示す必要性を感じた。
	3 日本史探究・精選 α	授業中の発問や生徒の活動の中で既習事項に触れる機会を増やした結果、既習事項と関連付けて理解ができ、知識が身についたことを実感できている生徒が多く見られるようになった。	知識の活用力や応用力が身についたと考える生徒の数はまだ少ないため、生徒が知識を活用しながら考える活動を授業に取り入れていくべきであると感じた。
	3 世界史探究・精選 α	アンケートの結果は概ね前期と変化なし。一部生徒を除いて「身についたことが実感できた」と感じている様子が見られる。授業を通して生徒の理解が深まり、歴史的事象を因果関係で考察する生徒が増えている。	意欲が高く、世界史への関心が高い生徒の中で、特に後期の授業計画の工夫が必要だと感じている。入試対策のための通史と、身に付けた知識をもとに考察する時間をどのように配分するか。
	3 日本史精選 β	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめる活動や他者の考え方を知り自らの考えを深め広める活動を通じて、授業の中で学習内容が身についたと実感できている生徒が多く見られた。	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解できている生徒の数がまだ少ないため、出来事や時代のつながりに注目させながら学習を進めることを意識していきたい。
	3 世界史精選 β	後期ではグループワークを前期よりも取り入れたため、他者の考えを知り、自分の考えを深めることができたと実感する生徒の比率が前期よりも増えた。	大学入試で世界史を選択する生徒が多い授業なので、大学入試を意識した授業づくりを行い、演習や定期試験で反映できるようにする必要性を感じた。

数学	1 数学Ⅰ・A	前期から多くの項目で平均値が上昇した。授業改善による効果や学習内容が図形に関するもので多くの生徒にとって理解しやすい内容だったことが影響していると考えられる。	ねらい、振り返りの項目が他の項目と比較して低い。授業を通して身に着けさせたい知識、できるようになったことを確認する時間の確保が課題である。
	2 数学Ⅱ	前期と比較して、多くの項目で平均値が上昇した。生徒主体の授業に重きをおいて、協働的な学習を多く取り入れたため、内容の定着や深い理解につながったと思われる。	ねらい、振り返りの項目が前期と比較して平均値が低くなつた。授業を通して何を理解するのか、授業の最後に何ができるようになったのかを明確にする時間を設けたい。
	2 数学B	前期と比較して、多くの項目で平均値が上昇した。新カリキュラムにて導入された統計の内容なので、生徒自身も理解が難しい内容だったと思うが、反復学習を通して理解に努めた。	ねらい、振り返りの項目が前期と比較して平均値が低くなつた。授業を通して何を理解するのか、授業の最後に何ができるようになったのかを明確にする時間を設けたい。
	3 数学Ⅲ	一年間を通して、多くの項目で平均値が上昇した。教科書を一通り学習した後の演習問題に入り、理解力が向上していることが要因であると考えられる。	演習前の講義でどの程度の難易度まで提供するかが課題である。難易度が高すぎると生徒の興味関心も薄れてしまう。科目にこだわらずに数学の知識を活用できるようにすることが課題である。
	3 数学Ⅰ(3年)	年間を通して、多くの項目で平均値が向上した。何度も単元を復習していく内に理解度が上がり、自らの考えを深めることができたと考える。	難易度のバランスを保つつつ、演習量を維持していきたい。
	3 数学Ⅱ(3年)	後期の試験の点数が大きく下がり、平均値はやや下がつた。テキストの内容がやや難しかつたようである。	テストの難易度をやや低目に設定して、生徒のモチベーションを上げたほうが良いと考える。
	3 数学C	後期からは単元として活用する生徒が減り、入試問題を解く機会が多くなつた。全体的に、低い評価の人は減つたという事は良いが、とても良い評価の人が減つており、全体的には評価は変わらなかつた。	入試問題のバランスを考えつつ、生徒の興味の維持をしたい。数学Cのベクトルのみ必要な生徒とすべてが必要な生徒への配慮が重要であると考えるが、学校の授業としての位置づけも考慮に入れなければならない点が課題である。
	3 応用数学	一年間を通して、多くの項目で平均点が向上し概ね高評価を得た。進路に直接結びつく科目であるため良く取り組んでいたと考えられる、基礎力、応用力が着実についてきている。	前期に式と曲線について学習できたことがよかつた。早めにひと通りの学習が終えて演習に取り組む時間が確保できたと考える。来年度も柔軟に学習できるとよいと考えます。
	1 物理基礎	内容が変わつたこともあってか、学んだことが身についたと思えるようになった生徒が増えた。与える課題を日常生活に絡めたり、実験をすることによって現象の理解が深まつたと考えられる。	テストの難易度が高いようなので、少し低めに設定してみる。内容が難しいところについては、教材の工夫について検討していきたい。
理科	1 化学基礎	全ての項目で平均値が上昇したが、特に「自らの考えを広げ深める機会がある」については上昇の度合いが大きかつた。実験や、問題演習の際に互いに教えあう場面が多くあつたことが影響したと考えられる。	単元の中で、適切に実験を取り入れるとともに、問題演習を行う際にグループワークを取り入れるなどして、自らの考えを広げ深める機会を増やしていきたい。
	2 物理基礎	課題や実験への取り組みに比較的意欲的に取り組む生徒が多い。その一方で難しい課題に取り組むのが苦手な生徒もいる。	意欲的に取り組む生徒は多いが、難しい課題などに対しては、今後グループワークやきめ細かい指導で、生徒が主体的に授業に取り組むようにしていきたい。
	2 化学基礎	全ての項目で平均値が上昇した。問題演習が多くなる中で、お互いに話し合う場面が増えたことが影響したと考えられる。	自らの考えを広げ深める機会については上昇の度合いが最も小さかつた。単元の中で、適切に実験を取り入れるなどして、お互いの考えを伝え、話し合う場面を積極的に増やしていきたい。
	2 生物基礎	前期に比べ、各項目とも評価が下がつてゐる。引き続き授業担当者で連携しながら改善していきたい。	一方的な授業にならないよう、また知識の定着だけでなく、自分の考えを広げられるよう工夫し、課題の解決に取り組む機会を作つていていきたい。
	3 物理	10月から演習の授業に取り組んだため、主体的な学習傾向がみられるようになったが、全体としての振り返りや見通しを立てた取り組みへの評価が下がつた。	問題演習力につけると同時に、様々な学習形態を通して自然現象を客観的にとらえ、科学的に考察する力を身に着けさせる。
	3 化学	後期は入試に関連する問題に取り組む時間と実験の機会を設け、生徒が学んだことや目の前の事象をもとに考察したり、結果をまとめたりする活動を増やしました。前期と比較してねらいや振り返りに関しての評価が上がつてますがそれ以外の項目の評価が下がつたのは残念です。入試問題が少し難しかつたのが要因の一つかも。	演習時間・生徒の活動の時間の確保に一層努めると共に、視聴覚教材の充実により、時間的に困難な状況下であつても実験や考察の機会を設けることができるようになる。
	3 生物	授業への取り組みはよく、概ね授業の内容に関する理解はできているようである。前期と比較して、全体的に評価が上がつてゐる。	引き続き、復習や振り返りを含めた学習習慣の定着を促していきたい。また、既習事項と関連付けたり、自身の考えをまとめて広げるなどの機会をより多くつくりたい。

保健 体育	1 体育	「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」生徒が増加した。	これまでの学習の過程で、経験してこなかった種目等でも丁寧に指導し、できることを増やすことを意識していきたい。そこから生涯を通じて一つでも多くの運動に取り組むことができるよう、生徒の今後の選択肢を増やしていく。
	1 保健	ほとんどの項目で前期を上回る肯定的な意見が増加した。	他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会を意識的に多く取り入れ、知識の蓄積だけでなく、活用できる場を工夫していく。
	2 体育	持久走など高い身体能力を要する種目でも目標意識を持って取り組む生徒が多い。選択種目(球技)の実践では周りと協力して自己の技能を高めようと努力する生徒の姿が見られた。	後期は持久走や武道・ダンスなど、生徒が苦手とする種目が多い中、意欲的に参加している生徒が多いため、次年度以降も維持・向上できるように継続的に指導を行っていく。
	2 保健	授業で得た知識を、日常生活でどう活用していくかという点に関して課題が見られた。	グループワークや生徒の意見を聞く場面を要所に取り入れ、生徒全体が自分事として授業に取り組めるように意識していく。
	3 体育	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解できたという点で肯定的な意見が増加した。	授業の中で身に付いたことやできることを実感している生徒が多いので、今後も授業の中で技能の向上を目指していく。
芸術	1 音楽 I	前期からの演習の積み重ねで基礎的な能力が安定してきた様子がうかがえる。目的をもってここでの表現するために試行錯誤を重ね成果をあげられたようである。	基本事項の徹底の指導方法を研究し、効率を上げ、生徒自身が自己表現について考えたり、練習したりする時間を多く確保できるように工夫したい。
	1 美術 I	前期と比べほぼ全ての項目で評価が上がっていることから、前期よりも落ち着いて意欲的に学習に取り組めたようである。	振り返る機会の項目が他と比べると低いので、その日の最後にまとめを出し、理解度をあげる。
	2 音楽 II	前期の経験を踏まえ、それぞれの生徒が自己の表現の特性や方法について熱心に取り組むことができ、積極的に発表することができた。	生徒の自己表現に対する意欲をよりひきだせるようなアプローチと技術的な指導を積極的に行い質の高い表現を目指せるように指導したい。
	2 美術 II	全ての項目において良好な評価が得られた。生徒主体で学び合い、経験や能力を高める場が作られていた。	今後も生徒主体で学びが深まるよう課題や制作環境を工夫する。
英語	1 英語コミュニケーション I	全ての項目においてポイントが上昇していることから、授業改善についての一定の効果が出ていると考えられる。なかでも「毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある」の項目が最も高い0.20ポイントの上昇となった。	授業や単元のはじめ・終わりに学習のねらいや到達度を確認することができるようになった。今後は授業で学んだことを別の学習場面で関連付けて理解する意識を生徒が身に付けられるよう、教員側で工夫して発言したり教材を作成したりしたい。
	1 論理表現 I	全ての項目においてポイントが上昇していることから、授業改善についての一定の効果が出ていると考えられる。なかでも「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の項目が最も高い0.15ポイントの上昇となった。	授業後や単元終わりの振り返りのなかで生徒の達成感や到達感を高めることができた。今後は授業や単元のはじめにきちんと学習のねらいを示すことで、生徒がより明確に目標を設定し到達までのタスクを確認することができるようにならねたい。
	2 英語コミュニケーション	全ての項目においてポイントが上昇していることから、授業改善についての一定の効果が出ていると考えられる。特に、「課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある」の項目の上昇値が大きい。	全体の項目についての点数を維持しつつ、「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の項目の点数が低下しやすい傾向があるので、授業での目標の明示や最後にできたことを確認するなど生徒にできるようになったことを実感させるように努める。
	2 論理表現 II	全7項目中6項目でポイントが上昇していることから、授業改善に一定の効果が出ていると考えられる。しかし、各単元のはじめに学習のねらいを示すなど、改善しなければいけない課題が山積した結果だと分析する。	生徒が各単元を学習した後に、どのような知識または能力を身につけることができるかを明示した教科指導の徹底が急務である。また、言語活動の充実を図り、生徒が達成感を実感できる「指導と評価」の計画作成を来年度の目標に設定して取り組む。
	3 英語コミュニケーション	「他者の考えを知り自らの考えを広げ深める機会がある」の項目が3.12から3.03へ大幅に下落した。受験対策などが中心となった後期の授業においてやむを得ないところもあるが、授業における包摂性が低下していることを示している。	生徒の多様なニーズに寄り添い、多様なキャリア選択を支える授業展開を行う必要がある。また、表現活動などにおいては他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会を充実させる必要がある。
	3 論理表現 III	多くの項目において高いポイントを維持しており、授業改善が功を奏していると考えられる。しかし、論理表現 II、III双方の授業内容、進度の見直し等、改善しなければいけない課題も多くあり、更なる授業改善へと繋げたい。	生徒が各単元を学習しながら、卒業後の希望進路実現のための様々な英語力を身につけることを指し、どのように生徒を指導し、学びを見守り育てていくかが、今後も3年生の授業において課題である。
家庭	2 家庭基礎	学習内容(分野)が変わったこともあり生徒の関心も高く、ほとんどの項目でポイントが上昇している。	少ない授業の中で、即実感できるような体験は難しいが、日々の生活と関連付けてアウトプットできるような内容を精選し、達成感や理解度を高めていきたい。
情報	2 情報 I	エクセルの関数計算の発展問題やプログラミングの課題では過去に取り組んできたことを参考にしながら進めると、効率よく解決できることに慣れたと感じます。	生徒一人ひとりにプログラミング作品を制作させて発表をし、他者の作品を知ることで、自らの考えを広げさせたい。